

1 単元名 ネット型ボールゲーム 「テニピン」

2 単元の目標

- 用具を使ってボールを返球したり、ボールを打ちやすい場所に体を移動したりして、ラリーゲームを行うことができる。(知識及び技能)
- ラリーを続けるために、相手にとって打ち返ししやすい打球や、相手の打球を打ち返す方法について考えるとともに、考えたことを友だちに伝え合うことができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 練習やゲームに進んで取り組んだり、話し合いで自分の気づいたことを伝えようとしていたりしている。(学びに向かう力、人間性等)

3 基盤 (省略)

4 単元計画 (全8時間)

	1	2	3	4	5	6	7	8
ねらい	●テニピンについて知る。	●課題を設定する。 ●個別練習を行う。	●ラリーを続けるための基本的な技能を身につける。 ・相手が打ち返ししやすいように、山なりの打球を打つ。 ・相手が打ったボールの動きを予測して動く。 ・相手が打ち返したボールに備えて、打ちやすい場所で待機する。				●ラリーゲームでの動き方を工夫し、チーム内で2分間続けてラリーをした回数(記録)を伸ばす。	
主な学習活動	○単元の流れを知る。 ○ラケットの扱いに慣れるための運動を行う。(風船、ワンバウンドリフティング)	○試しのゲーム(ラリーゲーム)をする。 ・チームや自分の課題をもち、単元を通した目標をもつ。 ・技能を高める運動を行う。	○スキルアップタイム 〈個人で技能を高める運動〉 ・ワンバウンドリフティング ・一人壁打ち 〈複数人で技能を高める運動〉 ・コロコロゲーム ・キャッチ&ラリー ・1対1でのラリー ○ラリーゲーム ・チーム内で、2分間で続けてラリーを行った回数を記録する。 ・できるだけ長くラリーを続けるためのコツを出し合い、実践を振り返る。				○ラリーゲームを行う。 ・ラリーゲームに向け、技能を高めるために特に必要な練習方法を話し合い、練習に取り組む。 ・チームでラリーゲームを行い、最高記録を目指す。	

5 授業の実際

**【視点①】**なりたい姿をイメージし、自他の課題や変容の自覚を促す「単元構成と授業」構成の追究

- 3年生にとって、用具を使ってボールを打ち返すといった運動は初めての経験であり、相手コートスペースを意識し、自分の狙った所にボールを打つことは容易でないことが予想された。そこで、「点取りゲーム」ではなく、「ラリーゲーム」をメインゲームとして設定し、スキルアップタイムやラリーゲームを通して、自分が狙った所にボールを打つための基礎感覚を身に付けていくことができるよう、単元構成を行った。

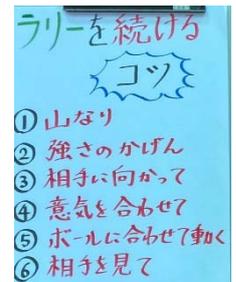
○運動意欲を高める取組として、単元の終末に、2分間のラリーゲームの中で最高記録を更新することを目標とし、メインゲームを繰り返し行った。

**【視点②】 なりたい姿に向かう「基礎感覚や基本技能を高めていくための手立て」の追究**

○ラリーを長く続けるためには、ラケットの両面を使ってボールを打ち返す技能を身に付ける必要がある。そこで、単元導入時において、ボールを打つよりも簡単にラケットの両面を使って打つことができる風船を使い、フォアハンドとバックハンドでの腕の振りを十分に体験させる時間を確保した。



○第3時では、試しのゲームでの経験から、長くラリーを続けるためのポイントを考える時間を設定した。児童の意見をまとめ、「山なりで打つ」、「相手の打ったボールの動きを予測して動く」、「相手が打ち返したボールに備えて、打ちやすい場所で待機する」の3つの項目を共通意識とした。そこで、「個人で技能を高める運動」と「複数人（チーム内）で技能を高める運動」を兼ね合わせたスキルアップを、各時間の前半に設定した。



**【視点③】 なりたい姿に近づくための「主体的・対話的で深い学び」の追究**

○より長くラリーを続けるためのチームとしての課題に気付くことができるよう、第3時～第6時では「ラリーゲーム（2分）→振り返りタイム（2分）」を1セットの活動とし、それを3セット行うことで、振り返りタイムの中でチームの課題について十分に話し合い、修正する時間を設定した。



**6 成果(○)と課題(●)**

○2分間のラリーゲームの記録として、はじめは10～20回程度であったが、終末には60～70回程度のラリーを行うことができるようになった。要因としては、各時間（第3時～）の前半にスキルアップタイムを設定したことにより、大半の児童がラケットを使って安定してボールを打ち返す能力を高めることができ、ラリーゲームでの記録更新につながったと考える。



○できるだけ長くラリーを続けるといった明確な目標を設定することにより、スキルアップタイムやメインゲームでの経験を通して、児童自らがラリーを続けるためのコツを考え、共通理解することができた。

●本単元の目的をできるだけ長くラリーを続けることとし、ボールを打つ時に児童の腕の振りが縮こまることのないように、コートエンドランやサイドラインの設定を行わなかった。児童は打ち返しやすいボールだけでなく、ラインを超えたボールに対しても一生懸命に追いかけて、相手コートに打ち返そうとする姿が見られた。しかし、ラインを大きく超えることで打ち返すことが難しくなり、ラリーが中断する場面が多く見られた。コートの大きさを意識づけることにより、打球を受ける位置取りや返球する位置を調整しようとする意識が生まれ、今後、点取りゲームに移行する際への接続がスムーズになると感じた。

●ラリーゲームの後の作戦タイムでは、チームでの課題を積極的に出し合う姿が見られた。その際、児童が出し合った課題を確実に共通理解し、修正案を反映しやすくするための手立てとしてミニホワイトボードを活用するなど、伝え合うための手立てを工夫することにより、チーム全体として更なる技能の向上を図ることができたのではないかと考える。